

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770200412		
法人名	社会福祉法人 厚仁会		
事業所名	グループホーム さぬき富士		
所在地	香川県丸亀市飯野町東二25番地21		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 23 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

讃岐富士のふもとに建ち、日中は花や緑に囲まれ、夜は綺麗な夜景が見える落ち着いた環境の中で生活している。ホームの理念にあるように、「笑顔・優しさ・おもいやり」を職員全員が持ち、ご利用者の方と楽しい一日を、一緒に過ごせるように心がけている。ご家族の方と一緒に、ご利用者の方が生きがいを持って自立した生活を送れるよう、管理者・職員みんなで話し合って支援している。また、ご利用者一人ひとりの生活のリズムに合わせ、無理のない、安心安全な生活ができ、また、日常の健康管理や事故・緊急時に対応できるよう、主治医・看護師・協力病院との連携をとっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3770200412-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 1 月 30 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回評価した場所から引っ越しをされ、以前より広い空間となり、前が良かったという利用者の声もあったが、徐々に慣れてきて、「住めば都」が似合う言葉が当てはまった。利用者の入れ替わりも多少あったが、入所希望も多く、充実した落ち着きに戻ってきた。特に、自然豊かで、それに合わせて利用者の心も豊かで、時には大きな声で笑ったり、仲が良いだけにちょっとした口喧嘩をしたり、まさに家にいるような喜怒哀楽の繰り返しの生活であるが、穏やかな施設と職員の触れ合いに包まれ、リビングでは、おしゃべりで花を咲かせていた。施されるのが好きではない利用者にも合わせて、それぞれの方のペースに合わせ、小人数を活かせる生活を施している。空間にゆとりができた新しい職場も、職員は却って落ち着きが増し、穏やかな風となって、今までのコロナ禍で行事が止まっていたホームに爽やかな風を運ぼうと、家族を呼んでのイベントを考えている。緩和の中で、花見、夏祭り、クリスマス会の機会を取り戻したいと様々なことに頭の中に巡らせ、手始めに福祉ママのボランティア、専門学校の生徒、子供さんの触れ合う場も視野に入れ、「雨が降って地が固まる」の言葉どおり、今回の引っ越しが、新たな大きなステップとなり、職員の前向きさが、以前以上に表面化した施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である「笑顔・優しさ・思いやり」をかかげ、朝礼では理念に基づく事例を発表し、実践につなげている。	理念は内玄関に掲示していて、前回の評価結果を受けて個人目標も掲げ、地域と身近な関係が深くなるつつある。朝礼はZoomを活用して法人全体で実施し、3週間に1回、各部署から『おもいやりシート』の発表から、あえて思いやりを偏らない様に勤めている。GHからは、ケアハウスと合同で開催することで、「クリスマス会で利用者が笑顔になった」と発表できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの流行にともない面会や行事などを中止していたが、(5類への移行後)感染状況を見つつではあるが、面会制限の緩和や行事・外出等の再開を行なっている。6月より運営推進協議会の再開・お楽しみ会への福祉ママの方の参加の再開をし、少しずつ地域との交流を持てるように取り組んでいる。	登山口の近くにあるので、登山の方とすれ違い、挨拶を交わすこともある。秋祭り際には、ケアハウス前に子ども神輿が来て、利用者は大いに懐かしさを深めている。法人一括で、中学生の受け入れや専門学生との交流の場を設けている。地域のボランティア団体「福祉ママ」が来られて、利用者と一緒にレクリエーションをしたり、会話を楽しんだりして過ごしていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	6月より運営推進協議会を再開している。直接グループホームの現状を報告し、様々なご意見を頂き情報交換をすることで、認知症についての理解を深めて頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の取り組み、現状を報告し、参加者からは要望や意見、地域の情報を頂いている。令和5年6月より運営推進会議を再開し、グループホームにお集まり頂き、直接お話することができるようになった。	コロナ5類以降は対面で実施できている。丸亀市高齢者支援課、飯野福祉ママ代表、家族代表、利用者が参加している。利用者状況、ヒヤリハット・事故報告、レク報告、職員の研修報告を行い、参加者から「買い物、移動販売をしてほしい」との家族の意見が聞け、普段と違う雰囲気生まれ、アットホームな雰囲気だったとの声が聞けた。	運営推進会議の参加メンバーを増やしてみたいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	丸亀市健康福祉部高齢者支援課の担当職員の方には運営推進協議会に参加いただくなど、協力関係を築いている。新型コロナウイルス流行時には大勢で集まる事ができなかった為、お手紙やお電話で情報交換を行っていたが、6月より運営推進協議会を再開し、直接お話をすることができるようになった。	市町村への連携窓口はケアマネジャーが担当している。何かわからないことがあれば問い合わせをして、何でも教えてくれる関係が形成されている。しゃんと体操のポスターを頂いたり、研修会への参加案内の連絡を頂いた。ケアマネジャーが窓口となり、直接確認をして理解度を増している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及びすべての職員が、身体拘束について正しく理解するよう定期的に勉強会を行ない、拘束を外す為の取組みを話し合っている。身体拘束防止マニュアルを作成している。現在、身体拘束を行なっている利用者様はいない。	拘束はしておらず、玄関は夜以外は開放してあり、夜は暗くなりやすいので、戸締りをして安全を高めている。法人全体とグループホーム内での委員会がある。スピーチロックについて取り上げて、実際の事例を参考にて確認することができた。言葉の置き換えや理由を説明するように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止等実務者会議に出席し、ホームで虐待について勉強会を行ない、虐待防止に努めている。虐待防止マニュアルを作成している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームで日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会を行ない、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約時には、利用者様・家族様と一緒に書類に目を通し、1つ1つの疑問点について分かりやすく答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時・行事参加時・運営推進協議会等で、直接意見を聞かせて頂き、市の職員・管理者・職員が問題について検討し、運営に反映させている。年3回情報誌を発行し、近況報告し、情報の共有に努めている。	年3回「ほんのりさめき富士」だよりの発行や利用者の写真を見せて、施設内の自然な生活の姿の様子を伝えている。運営推進会議や面会時に様々な意見を聴取して、利用者から「買い物したい」との要望が上がり、週1~2回ケアハウスに来る移動販売でのパンや果物の購入ができた成果があり、移動販売の方のおしゃべりも継続され満足されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話やキャリアパスの面談時などで、職員の意見や提案を聞き、反映している。	利用者のケアの方法や区分変更の意見など何かあればその都度、意見が言えるような関係で築かれている。月1回の会議では、各部署の職員が集まりカンファレンスの中から、細かな修正や共有する場を設け、情報共有だけでなく職員間の連携に繋がる言いたいことが言える関係まで理解しやすく、自然と同じ方向にベクトル合わせてきているから勤続年数が高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や各職員を把握し、向上心を持って働けるよう努めている。キャリアパスを用いることで、個人の向上を目に見える形で把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や各職員を把握し、可能な限り研修の参加機会を確保し働きながらトレーニングしていく事を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	丸亀市健康福祉部高齢者支援課主導によるネットワーク作りにも積極的に参加し、勉強会や施設訪問など、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望や困っている事、不安な気持ちを十分に理解し、解決するまで何度も話し合いを重ね関係者から詳しい情報を得ることなど、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望、不安な気持ちを十分理解し、解決策や、協力して頂ける事をしっかり話し合い、信頼して頂ける関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされる支援を見極めるため、職員全員で話し合い、本人様や家族様の要望に添えられるサービスの提供をめざし、また他の職種の意見も取り入れ、チームで協力できる体制に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様と寄り添い、一緒に生活を過ごす中で喜怒哀楽を共にし、人生の先輩として沢山の知識を教わり、お互いに支え合う関係を築いている。簡単な家事などを頼み、本人様がこの場で必要とされていると感じられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス流行にともない、家族様の行事への参加はご遠慮頂いた。面会も制限がかかりご不便をおかけしたが、料金の支払いなど来園時や電話での状態報告時にはしっかりコミュニケーションをとり、一緒にご本人を支え合う関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの流行にともない、面会に制限がかかりご不便をおかけした。5類移行後は感染状況を見つつではあるが面会制限の緩和を行っている。以前のように親戚・知人などの方が訪問しやすい、また話しやすい雰囲気を作り、写真等で日常生活を紹介するなど、笑顔のあふれる支援に努めていく。	面会は玄関で対面式で実施している。偶然会った移動販売の方とは、馴染みの関係だったことがわかり、馴染の関係がさらに深まって昔話に花が咲いた。ケアハウスから移って来られた方は、徐々に職員と会うと満面の笑みを浮かべた。駐車場に咲く桜を見たり、窓から見える田園風景が利用者に癒しを与えている。ドクター受診ノートから、医療の安心度は増している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や起床のお誘いをして頂いたり、体操やレクリエーション時に利用者様同士で声を掛けあい、支え合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先の関係者に情報を詳しく伝えるとともに、その後の状態を見守り、面会に出かけたり、ご家族の方からの相談に応じるなど、フォローアップに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	体調管理に合わせて、不安や訴えを記録し、希望や意向を把握する為、職員全員で話し合い検討し、支援できるよう努めている。	日々の記録はタブレットの自由記入欄に書き留め、特段の必要事項があれば申し送りノートに記載し情報共有をしている。発話が苦手な方へは、日常生活の様子、特に日常会話を敏感に察し、表情、仕草から普段との違いから読み取るようにしている。多く接することに徹し、利用者の思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様一人一人の生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過を理解、把握し、その人らしく生活して頂けるよう努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様と一緒に生活していく中で、自分らしさや能力を職員全員が見極め、寄り添い、支援を継続していくよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成には、ご本人、家族、医師、看護師等関係者と連携を図り、安心安全に過ごして頂けるよう話し合いをし、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、居室担当職員から意見を吸い上げて、ケアマネジャーが作成している。入居時に暫定プランを立てて、3ヶ月、6ヶ月毎に見直していて、何かあればその都度変更している。日々の介護記録をタブレットに記録することで、水分量、排便、排尿などがすぐにわかるので、職員全員が把握できている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の毎日の様子をタブレットを使用して分かりやすく記録し、職員間の申し送りは詳しく行ない情報の共有を図り、新しい気づき・工夫の実践結果等をその都度話し合い、今後の実践や介護計画の見直しに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の要望に合わせ、ケアハウスでの訪問販売や演奏会等の行事に参加するなどの交流を図っている。利用者様の身体状況に合わせ、併設施設の看護師と連携したり・系列施設の利用を検討したりするなど、柔軟な支援を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの流行にともない、行事などを中止していたが、(5類への移行後)感染状況をみながらではあるが少しずつ再開している。6月より福祉ママの方に月1回のお楽しみ会に参加して頂いている。又、短時間ではあるが、お花見・紫陽花見学・菊花展見学など外出の機会を増やしたり、地域の子供神輿が来園したりと地域との交流を増やしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様と相談し、かかりつけ医を決めている。協力病院から週1回の往診を受けている。適切な医療を受けられるよう連絡・調整を行なっている。	入居時にかかりつけ医は選べるが、全員が協力医に転医している。週1回ドクターの往診があり、優しい雰囲気でも何でも言える関係が築かれている。ケアハウスに看護師が常駐しているので、何かあればすぐに相談することができる。毎日の容態が確認できるように、「ドクター受診ノート」を活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設(ケアハウス)の看護師に、毎日利用者様の状態報告を行ない、日常の健康管理や医療の支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者が入院した際、病院関係者から状態報告を受けると共に、病院に行きご利用者の状態を把握するよう努めている。また主治医には、毎日状態報告を行ない、指示を仰いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の在り方について説明し、アンケートで事前にご意見やご要望をお伺いしている。終末期には再度確認して、より良いサービスが出来る様チームで支援している。	看取りは実施しているが、ここ数年はない。入居時に看取りに関する指針にて説明をし、同意書を交わしている。終末期を迎えるにあたり、再度事前確認書にて気持ちを把握している。年1回法人全体で看取りの研修を実施していて、学びを深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。グループホーム職員が、定期的に急変時・事故発生時の対応の研修を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルを作成している。主食・飲料水の備蓄をし、定期的な設備点検は、業者に委託している。災害時に備えて、定期的な避難訓練を行ない、運営推進会議では話し合いを行ない、地域の方にも協力・支援をお願いしている。	基本は法人合同で土砂・火災訓練を年4回実施し、SNSを活用して連絡網を回す訓練もできた。事務所内に利用者情報の名札を置き、いざという時の為に、服薬や身元引受人がわかるように工夫している。備蓄は水やご飯、カンパンを台所に3日分程保管している。期限間近の物は栄養士が味変をして提供して頂ける。	災害対策にて、今一度確認してみたいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の生活歴をよく知り、その方に合った言葉かけをするように心がけている。声掛けや接し方についても職員全員で話し合い、誇りやプライバシーの確保についても確認しあっている。今年、法人としてスピーチロックに取り組んだ。	呼称は基本的に苗字に「さん」付けて呼んでいる。トイレ介助の際には、すぐ介助できるように扉の前で待つことでプライバシーを確保している。利用者のプライバシーや利用者に合わせて、耳が遠い時は大きく、理解しにくい時は、ゆっくりと説明をするなどわかりやすく、エチケットに重点を置いて生活が安定できる環境づくりを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴・着替え・食事や飲み物・睡眠・行事参加等、ご利用者様の自己決定を促す言葉かけを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人の体調や希望を取り入れながら、その方に合ったペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴時・外出時などに自分で服を選んで頂いたり、居室に鏡とくしを置き、自分で整髪して頂いたり、クリームを塗って頂いている。馴染みの美容院をご家族の方と一緒に利用したり、ご家族にカットしてもらう方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食事の準備、後片づけなど、出来る事を行なっている。食事を楽しんで頂けるよう、職員全員で話し合い、給食委員会で献立・内容・形態についてより良い食事になるよう話し合っている。	3食法人内の厨房で作られた物が運ばれてきて、施設で盛り付けをしている。月1回のお楽しみ会では、ボランティア団体の福祉ママの方が来られ、誕生日ケーキやたこ焼き、ホットケーキ作りを楽しんだ。月1回栄養士の訪問があり、利用者について話し合いをする場を設けている。好き嫌いが激しい方が多く、希望に添えるように提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量をチェックし、摂取量の少ない方には好物を家族様に尋ね補ったり、補助食品などを利用している。水分も種類にこだわらず、こまめに摂取できるよう声かけを行っている。1か月に1回体重測定を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声かけをして歯磨きやうがいをして頂いたり、自分でできない方はガーゼで拭くなど清潔を保つことができるよう支援している。希望者は歯科の口腔ケアをうけておられる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の排泄チェック表を作成し、排泄のリズムを把握して、可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。	トイレは3ヶ所ある。用紙での記録とタブレットを使って、排泄チェックをしている。布パンツの方で過ごしている方が1名おられる。日中は全員トイレへの誘導を促し、夜間ポータブルトイレを使用している方もいる。排出チェック表を活用し、スムーズなトイレ介助に役立てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の種類や時間にこだわらず、こまめに摂取できるように声かけを行ない提供している。毎朝の体操やボール投げで体を動かしたり、散歩をして気分転換を図って、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間の入浴は行なっていませんが、日中いつでも入浴できる環境を整え、ゆっくりと入浴できるよう支援している。利用者様の体調などに合わせ、グループホームのリフト浴(個浴)にて入浴して頂いている。	基本は週2回。リフト浴がついているので利用者の入浴がスムーズになり、職員の負担軽減にもなっている。入浴を拒否される方はおらず、スムーズな誘導ができています。脱衣所は冷暖房完備で、その人に合わせた温度調整にしています。気分転換のために、入浴剤を使用する場合もあり、保湿ケアも行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人の生活習慣・年齢・心身の状態に合わせて休息できるよう支援している。夜間安心してぐっすり眠れる様、日中の散歩や体操をし活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬管理表を作成し職員が常に把握できるようにしている。薬は一括で保管管理している。服薬時、職員が氏名・日付・服薬方法を確認して手渡し、服用の確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人の得意とする事ややってみたい事・好きな事を聞き、楽しんで頂けるよう工夫して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良いときには外気浴や散歩をするなど、当日の身体状態に合わせて支援している。(コロナウイルスの流行状況をみながら)短時間ではあるが、お花見・紫陽花見学・菊花展見学などに出かけている。	春には、散歩がてら駐車場に咲く満開の桜を見た。ドライブがてら、飯山の運動公園での桜や番の州にアジサイ見学、丸亀城の菊花展へ出かけた。主任が撮影した満濃のイルミネーションの写真が飾られていた。家族とのお出掛けは基本自由としていて、外食や実家に帰った方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス流行の状況や本人様の希望などのようすをみながら移動販売に出かけ、お菓子や果物など好きなものを購入し、レジでの支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話を利用できるよう支援している。又、手紙やはがきのやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気・臭いがこもらない様窓を開け換気を行なっている。昨年8月に元ショートステイだったフロアをリフォームしグループホームが移転した。新しいホームに慣れていただけるように居室に馴染みの物を置いたり、ホールには、四季を感じる事が出来る飾りつけをしたりしている。	日中はリビングで過ごす方が多く、利用者は、おしぼり巻きや洗濯物量みをしていた。脳トレ(計算、漢字)プリントをして、職員が丸付けをしている姿が印象的だった。YouTubeを流し、昔のコント番組や時代劇、昭和歌謡を聞くと利用者は笑顔になる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外にサンルームがあり、ご家族様と一緒に過ごしたり、1人でゆっくり外を眺めたりする事もできる。廊下にはソファを置き、お茶を飲んだり話をしたり、自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様・ご家族様と相談して、使い慣れた生活用品・飾り・写真を持って来て頂いている。ご本人様が作った塗り絵・飾りなども部屋に飾り、居心地良く生活して頂けるよう支援している。	元ショートステイの2人部屋なので広々な空間となっている。ベッド、洗面台、エアコン、床頭台、タンスが備え付けられている。大きな仏壇が持ち込まれ、「お花を変えないといけないね」と呟きながら、手を合わせている。安眠安全に考慮して、センサーマットを取り入れている。家族の写真や職員がプレゼントしたメッセージカードを大切に飾っていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや廊下には手すりを付け、ホーム全体がバリアフリーになっている。トイレ・浴槽にも手すりを付け、一人一人の身体機能を活かして、安全かつ自立した生活を送る事ができるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				